



若葉台中学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/wakabadai/>

発行 平成29年5月2日
横浜市立若葉台中学校
学校だより 1号
校長 岩永 徹
副校長 佐久間桂一

よろしく申し上げます

校長 岩永 徹

開花がちょっと遅かった桜に迎えられ、この4月に着任しました。どうぞよろしく申し上げます。着任以後、生徒や職員に次のような話をしました。

○私が目指す学校の姿は「生徒が主役の学校」「生徒・保護者・地域・職員の誰もが居心地のよい学校」です。生徒の発達段階や学校の実態に応じて、少しずつ実現を目指してほしい。
(4月3日 職員打合せにて)

○新しいクラスで出発するみなさんに期待することは「居心地のいいクラスを作ってほしい」ということです。クラスのみんなや担任の先生と協力して、居心地のいいクラスを作り、来年の3月には「いいクラスだったね」と言って解散できるようにしてほしいと思います。
(4月5日 2,3年生参加の始業式にて)

○毎日の挨拶はもちろん、授業は集中する、人の話はしっかり聞く、行事は協力する、公共マナーを守る、友達を信頼する、助け合い、譲り合い、思いやりの気持ちを持つなど、「当たり前のことが当たり前でできる生徒・集団であってほしい」
学年の先生方と一緒にすばらしい学級・学年・学校を創ってください。

(4月5日 入学式にて)

私の想いを少しでも感じ取っていただければ幸いです。

本校は昨年度、統合から10年の節目を迎えました。今年度から新たな10年の始まりです。統合前から「学校づくりは街づくり、街づくりは学校づくり」のスローガンの下、お力添えをいただいている地域の方々と一緒に、またお子様を愛してやまない保護者の皆様と一緒に、新たな一步を踏み出せるよう、教職員一同、一丸となって教育活動に励んでいく所存です。ご支援のほど、よろしく申し上げます。

平成29年度 特別支援教育について

特別支援教育とは、「生徒一人一人の学習状況や教育的ニーズを把握して、その持てる力を高めて、個々の子どもの生きる力を育む教育」です。生活上や学習上の困難を改善または克服するために適切な支援を行っていきます。どのような支援を行っていくかについては、それぞれの生徒、保護者のニーズが違いますので、保護者の皆様や生徒からの要請があれば、いつでも必要な支援内容を伺い支援内容を考えてまいります。学級担任等を通じてご相談、ご連絡いただきたいと思います。

本校の窓口は

特別支援コーディネーター 池田雅明教諭

29年度 職員紹介

	1学年 主任 梶原靖子	2学年 主任 脇田伸一	3学年 主任 梅坂いくみ
1組	野呂 尚諒	鰺坂 (あじさか) 拓真	平山 俊一
2組	青田 卓也	森 希実可	松下 欣旦 (よしあき)
3組	土屋 奈々	横溝 さゆり	久保 晴香
45組	須田 亨 中野 明穂		
副担	坂本 泰彦	湯田 達彦	鈴木直子
副担			池田雅明

【進路指導主任】 池田 雅明 【生徒指導専任教諭】 坂本 泰彦
 【養護教諭】 大河内 美幸 【事務職員】 黒宮 雪彦
 【技能職員】 高梨 豊明・横塚絹江
 【非常勤講師】 森 直美 (美術)・東 栄子 (家庭)
 齋藤 眞知子 (理科)・古賀 春奈 (国語)
 【学校司書】 成田 志麻 【カウンセラー】 大野恵里 【AET】 ダン・ウィーン

平成29年度 部活動

今年度4月27日現在の部員数と顧問を掲載しました。

吹奏楽部 顧問 久保晴香
横溝さゆり
1年 14名 黒宮幸彦
2年 15名
3年 11名

サッカー部 顧問 湯田達彦
1年1名 2年1名 3年8名

卓球部 顧問 梶原靖子
大河内美幸
1年男子17名 女子3名
2年男子5名 女子0名
3年男子6名 女子2名

茶道部 顧問 土屋奈々・鈴木直子
梅坂いくみ
1年5名 2年10名 3年2名

剣道部
顧問 脇田伸一
森 希実可
男 女
1年 0 3名
2年 3 3名
3年 1 0名

バスケット部
顧問 坂本泰彦
青田卓也
男 女
1年 6 0名
2年 7 1名
3年 3 6名

女子テニス部
顧問 中野明穂 ・ 松下欣旦
高梨豊明
1年7名 2年7名 3年8名

野球部 顧問 平山俊一
須田 亨
1年5名 2年5名 3年6名

バドミントン部 顧問 野呂尚諒
鰺坂拓真・松下欣旦
1年男子0名 女子6名
2年男子6名 女子4名
3年男子7名 女子6名

自然科学部 顧問 池田雅明・梅坂いくみ
横塚絹江・鈴木直子
1年4名 2年4名 3年5名

4月25日(火)旭区役所の地域振興課と旭署のご厚意により、若葉台中学校で安全教室が開催されました。スケアードストレートといいスタントマンの方々が、交通事故を再現して、交通安全の啓発を行うというものでした。

【生徒の感想】

- 交通安全教室をうけて、あらためて事故の恐ろしさを知りました。これからは、横断歩道を渡るときには、左右を確認して渡ろうと思います。
- ビックリした。
うに気を付けよ
- 私は、自転車の事故について自分にはあまり関係のないことだと思っていました。しかし、交通安全教室でリアルな再現を見て少しドキッとすることも多かったので、あらためて自転車のルールを見直そうと思いました。

交通安全教室

スケアードストレート 事故にあわないように



横浜市では、セクハラ防止、被害の相談窓口を設けていますが、学校でも窓口を設けています。被害にあったり、嫌な思いをしたときは、一人で悩まずに、是非相談してください。生徒、保護者ともに相談できます。

相談窓口となる職員

養護教諭 大河内 美幸

生徒指導専任教諭 坂本 泰彦

尚、スクールカウンセラー、身近な担任や部活動顧問などに相談されても結構です。

セクシャル・ハラスメント窓口

/5・6月の主な予定/

- 5月13日(土) 土曜授業参観、評価評定説明会
- 19日(金)
～ 2年生自然教室(戸狩方面)
- 21日(日)
- 22日(月)・23日(火) 2年生健康観察、振替休日
- 25日(木) 1年生遠足(江の島方面)
- 26日(金) PTA総会 16:00～(Eホール)
- 29日(月)・30日(火) 副教材費支払日(8:00～8:25 昇降口)
- 6月 2日(金) 開港記念日
- 6日(火) 第1回進路説明会
- 12日(月)
～ 第1回定期試験
- 14日(水)
- 21日(水)
～ 3年修学旅行(京都・奈良方面)
- 23日(金)
- 27日(火) 1年食育教室、3年霧が丘フェスティバル



江戸時代5街道の起点
となった橋です

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

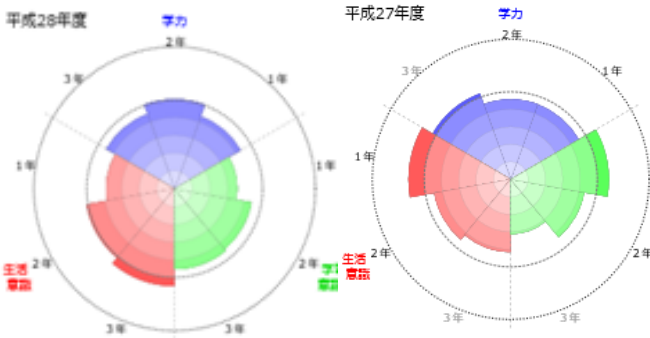
学校経営中期取組目標

- 子ども一人ひとりを大切に、学びを通して自立をめざします。
- 子どもが「わかる、できる」を実感し（基礎基本の定着）、「考える」授業を通して、思考力、判断力、表現力等の「学ぶ力」を育成します。
- 人も自分も大切にできる人権尊重教育を推進し、相手の立場に立って考えられる「思いやり」の気持ちと共生、協働の態度を育成します。
- 自治意識、自治能力を育てる主体的な生徒会活動を推進し、課題解決を図ろうとする力を育成します。
- 多様な人と関わり、充実した体験活動や実践の中で、自己肯定感や自己有用感を醸成します。
- 地域の教育力を生かして、地域からの学びと交流を図る中で、地域の中で成長し、社会に貢献できる子どもを育成します。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	○基礎・基本の定着を重点に置くとともに、「学び合い」や「対話」を重視し、主体的に課題解決能していく中で、社会の中で生きていく力を育てる。	・毎日の朝読書（学習の習慣化、学ぶ力、考える力の育成） ・放課後の学習会 ・授業改善月間・ユニバーサルデザイン・特別支援教育の視点を踏まえた授業
担当	学習指導部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握 (1) 学力の概要と要因の分析



(現3年→2年、現2年→1年) (現3年→1年)

- 国語科：読む力では、文章の内容に即して設問に答えることや、文章の展開や構成について自分の考えをまとめることができる反面、基本的な漢字の読み書きや文法事項が市の平均を下回っている。
- 社会科：資料を読み取る力や記述の問題に課題がある。
- 数学科：計算式から意味を読み取る力と基礎の計算力に課題がある。
- 理 科：自然事象についての知識・理解はあるものの、科学的な思考力が不足している。また、理科の勉強への有用感の低さも課題の一つといえる。
- 外国語科：書く力と表現力（話して伝える）に課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から28年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として学習への意識が高くないことが分かる。教科別では「美術や音楽」といった芸術に興味のある生徒が多い反面、5教科の意識は低い。中でも数学や英語といった積み重ねが必要な教科の意識が低い。また、「授業が分かりやすいか」という設問については、各学年共に「よく分かる」「だいたい分かる」という回答は約50%であり、市の平均を下回っている。「1日にどのくらい勉強しますか」という設問に対しても、1・2年生は1時間以上勉強していると答えた生徒が30%ほどで市の平均を下回っている。「1日にスマートフォンにかける時間」という質問に1時間以上と答えた生徒は全体で約60%に及ぶ。中でも1年生の中で3時間以上と答えた生徒が全体の30%に上る。いずれも学力層の比較で見ると、学力層が低い生徒ほどスマートフォンの使用時間が長く、授業も分からなくなっている。ただ、睡眠時間がしっかりと取れており、朝食を取って学校に来る生徒は市の平均を上回っている。今後は、教師が、生徒一人一人が分かりやすい、(ユニバーサルな授業)をさらに心がけていくと同時に、放課後の学習会や夏季補習など一人ひとりの課題を明確に持ち、解決していく過程を大切にすることが重要である。生徒自身については、スマートフォンの使用について考えさせ、家での学習時間を増やすことで、反復学習を徹底させ基礎・基本の定着を図らせたい。

また、生活意識調査の中で注目すべき点は、「1日にどのくらい読書を読みますか」という設問に対しては、年を経るごとに時間が増え、今回は7割以上の生徒が毎日10分以上本を読んでいることである。毎朝の読書活動が意欲的に行われていることで、積極的に本を読もうとする読書の習慣化が図られつつあるのだと考えられる。継続して取り組んでいきたい。